

暑さ指数計の庁内貸出事例

令和7年11月



(神奈川県環境科学センター)
神奈川県気候変動適応センター
Local Climate Change Adaptation Center in Kanagawa



▲県ホームページ

本事例集について

- 近年の気候変動に伴う熱中症リスクの増加に対する**適応策(※)**として、熱中症対策を推進するため、神奈川県気候変動適応センターでは、熱中症を予防するための指標である「暑さ指数」を測定できる「暑さ指数計」の活用について、普及啓発を行っています。
- 熱中症対策に取り組む庁内所属及び市町村に「暑さ指数計」を貸与し、各所属における活用事例を収集・整理しました。使用検討する際の参考としてください。

(※) 気候変動適応策とは、すでに生じている、もしくは将来予測される気候変動の影響による被害を回避・軽減させる取組のこと



活用事例まとめ(R6～R7)



事例	内容
事例①	夏季大規模イベントでの活用
事例②	野外活動での活用
事例③	施設利用者への熱中症対策の呼びかけ

○ 上記以外で相談のあった事例

- ・ 施設(待合室や室内プール等)の空調確認
- ・ 屋外防災訓練時の熱中症対策
- ・ 屋外自然観察会での熱中症リスクの把握 等々



活用事例①: 夏季大規模イベントでの活用


項目	内容
時期	8月中旬の2日間(各日10時~16時)
活用状況	<p>○1日3回(9時半、11時半、13時半)、4か所でスタッフが暑さ指数の計測</p> <p>内訳: 屋内1か所(アリーナ)、 屋外3か所(キッチンカー付近、バス停付近、芝生のテントブース)</p> <p>○計測値が35以上になった場合、次の対応を想定</p> <ul style="list-style-type: none">・1か所で35以上: その地点の責任者へ連絡、来場者へ呼びかけ・4か所で35以上: 実施場所や時間の変更を検討 <div></div>

活用事例①: 夏季大規模イベントでの活用

項目	内容
感想等	<ul style="list-style-type: none">○暑さ指数計は大きさもちょうどよく、操作も容易で使いやすかった○体感よりも測定値が低かった印象。14時ごろの屋外で31程度だった○来場者へ注意を促す際、測定値だけでなく「厳重警戒」等の行動表示もセットで示すとより効果的
他熱中症対策	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none">○「熱中症特別警戒情報」の発表状況の確認○「特別警戒情報が発表された際のプロセス(どのイベントを中止するか等)」の事前検討 <p>【当日の対策】</p> <ul style="list-style-type: none">○扇風機、冷却ファンの設置○うちわの無料配布○日が当たる場所で待機させないオペレーションの実施○有料の飲み物売り場を各所に設置○救護室の他に、ベッド付きの冷えた部屋の設置



活用事例②: 野外活動での活用

項目	内容
時期	7月上旬の2日間
活用状況	<p>○学生の参加する田んぼのジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)駆除体験イベントで暑さ指数計を活用</p> <p>○田んぼでの作業時(準備作業を含む。)、職員がおよそ20分ごとに計測</p> <p>○暑さ指数31以上が継続した場合、イベントの時短や中心の判断を検討</p>
	
感想等	<p>○三脚を使用して計測すると便利</p> <p>○日なたでは、指数計の液晶画面の確認が難しいため、工夫が必要</p>




活用事例②: 野外活動での活用

項目	内容
他熱中症対策	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none">○天気予報の確認(気温の上昇傾向を把握しておく)○作業前の暑さ指数を確認し、暑さ指数31以上の場合は実施可否の判断をする○熱中症対策について十分な意見交換を行い、事前に共有 <p>【当日の対策】</p> <ul style="list-style-type: none">○クーラーボックスで保冷した飲み物の配布○経口補水液500ml、清潔な氷の準備○AED設置場所の確認○近辺会議室を救護室として準備 また、冷房を入れた公用車を近くに置き一時救護室として準備○会場周辺の医院等の把握、緊急時救急車の経路確保



活用事例③:施設利用者への熱中症対策の呼びかけ

項目	内容
時期	8月下旬～10月下旬
活用状況	<p>○県民向け施設の展示室において、利用者に熱中症対策を呼びかける際の参考とした。</p> <div></div>
感想等	<p>○以前は暑さ指数を確認するために気温や湿度等を把握し、都度算出をしなければならなかったが、当機材によりリアルタイムで可視化することができ、利用者へのスムーズな案内等ができた。</p>

お気軽にお問合せください。

(神奈川県気候変動適応センター)

神奈川県 環境科学センター

環境情報部 環境活動推進課 大島、米山

電話 0463-24-3311 (内線 253)

メール kerc-tekiou.j4u3@pref.kanagawa.lg.jp



参考資料



労働安全衛生規則(令和7年6月1日改正)

基本的な考え方



現場における対応

熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重篤化を防止するため、以下の「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者には義務付けられます。

1

「熱中症の自覚症状がある作業員」や「熱中症のおそれがある作業員を見つけた者」がその旨を報告するための体制整備及び関係作業員への周知。

※報告を受けるだけでなく、職場巡視やパディ制の採用、ウェアラブルデバイス等の活用や双方向での定期連絡などにより、熱中症の症状がある作業員を積極的に把握するように努めましょう。

2

熱中症のおそれがある労働者を把握した場合に迅速かつ的確な判断が可能となるよう、

- ① 事業場における緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先及び所在地等
- ② 作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等熱中症による重篤化を防止するために必要な措置の実施手順(フロー図①②を参考例として)の作成及び関係作業員への周知

対象となるのは

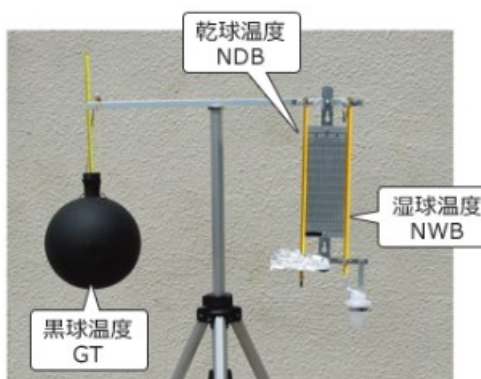
「WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で
連続1時間以上又は1日4時間を超えて実施」が見込まれる作業

※作業強度や着衣の状況等によっては、上記の作業に該当しない場合であっても熱中症のリスクが高まるため、上記に準じた対応を推奨する。

※なお、同一の作業場において、労働者以外の熱中症のおそれのある作業に従事する者についても、上記対応を講じることとする。

熱中症の予防～暑さ指数(WBGT)～

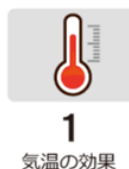
暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature)
は、熱中症を予防することを目的として人体の熱収支に与える影響の大きい
①湿度、②日射・輻射など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。



暑さ指数の算出方法

$$\begin{aligned}\text{暑さ指数}[\text{℃}](\text{屋外}) &= 0.1 \times \text{乾球温度} + 0.7 \times \text{湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} \\ \text{暑さ指数}[\text{℃}](\text{屋内}) &= 0.7 \times \text{湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}\end{aligned}$$

暑さ指数
(WBGT) =

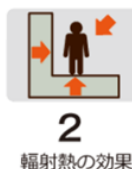


1
気温の効果



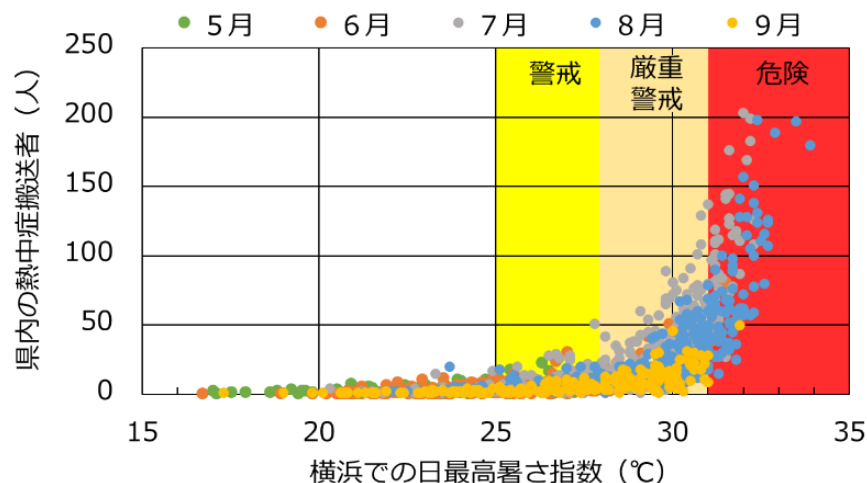
7

湿度の効果



2

輻射熱の効果



暑さ指数が**28℃**を超えると、
熱中症搬送者数が急増します。



熱中症警戒・特別警戒アラート

きょう [6月23日]

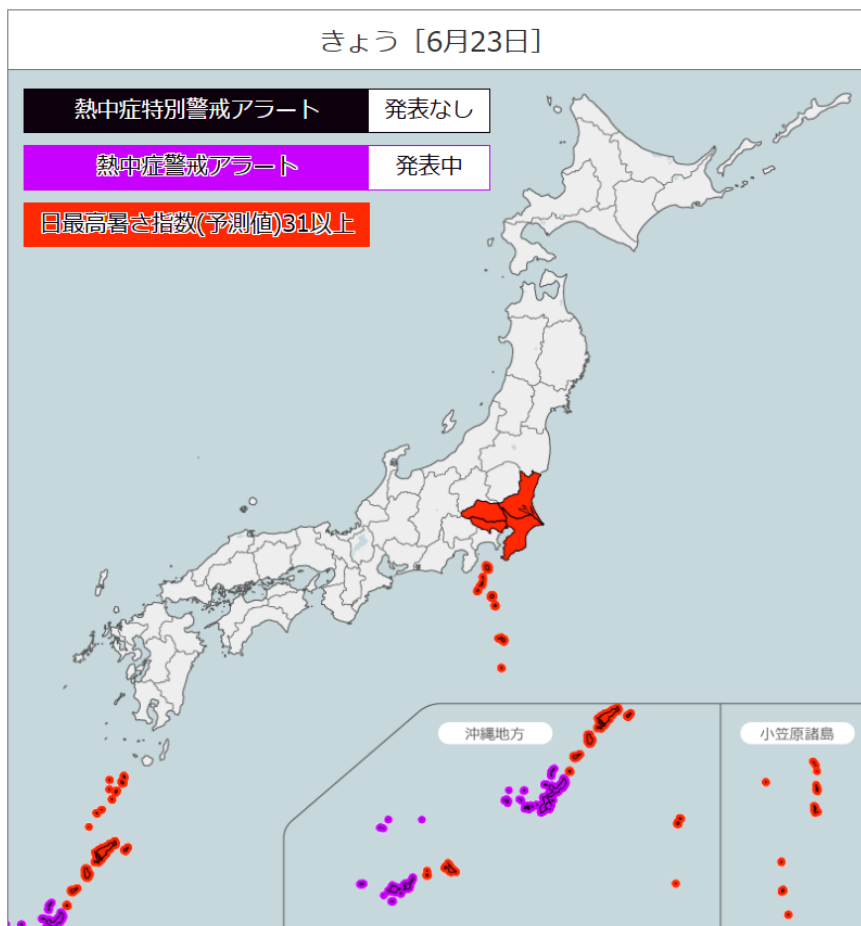
熱中症特別警戒アラート

発表なし

熱中症警戒アラート

発表中

日最高暑さ指数(予測値)31以上



種類	熱中症特別警戒アラート	熱中症警戒アラート
基準	県内 すべての 暑さ指数 情報提供地点(※)で 翌日の 日最高暑さ指数が35 (予測値)以上	県内いずれかの暑さ指数 情報提供地点(※)で 翌日・当日の 日最高暑さ指数が33 (予測値)以上
内容	広域的に過去に例のない 危険な暑さとなり、人の 健康にかかる重大な被害 が生じるおそれがある場 合に発表	気温が著しく高くなること により熱中症による人の 健康に係る被害が生ずる おそれがある場合に発表

(※) 神奈川県内の暑さ指数情報提供地点(5か所)
: 横浜、三浦、海老名、辻堂、小田原



▶ 環境省
熱中症予防情報サイト
<https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php>



貸出暑さ指数計

【参考】日常生活・運動に関する指針(暑さ指数)

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき生活 活動の目安 ^(注1)	日常生活における注意事項 ^(注1)	熱中症予防のための 運動指針 ^(注2)
31℃以上	すべての 生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合は中止すべき。
28～31℃		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒 激しい運動や持久走は避ける。積極的に休息をとり、水分塩分補給。体力のない者、暑さになれていない者は運動中止。
25～28℃	中等度以上の 生活活動で おこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。	警戒 積極的に休息をとり、水分塩分補給。激しい運動では、30分おきくらいに休息。
21～25℃	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意 死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意。運動の合間に水分塩分補給。

(注1)日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver3」(2013)より

(注2)日本体育協会「熱中症予防のための運動指針」(2013)より



暑さ指数計の例

